
秘密

茄子野郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

秘密

【Nコード】

N48760

【作者名】

茄子野郎

【あらすじ】

どんな時も冷静沈着、周りからクールスナイパーと言われる彼の
唯一の秘密とは…

ある日の平日のお昼時。

私は有給を使って洒落た代官山のオープンテラスのカフェに来て
いる。

席は店の一番奥。客は平日の昼間とあってか店内は私一人だ。
店では消音にされたテレビがついている。

私の職業は銀行員。自分で言うのもなんだがこつこつまじめに働
く非常にクールな人間だ。

同僚とこんな会話をしたことがある。

「先輩好きな芸能人とかいるんですかあ？」

「んー…テレビはほとんど見ないんだ。だからよく知らない」

「先輩って大きな声を出したり興奮することってあるんですかあ
？」

「んー…あんまり無いかもしれない」

「やっぱりなあ。私も先輩にそういうイメージ全然ないですもん。
さすがクールスナイパーですね」

数年前、私が窓口勤務していた時に銀行強盗が入ってきたのだが

「金出せこるああああ！撃ち殺すぞこるああ！」

「…分かりました。すぐにご用意いたします。もしその拳銃が本
物であればですが…」

慌てることなく拳銃が偽物であることに気付いて撃退してから

私はクールスナイパーと呼ばれるようになった。

平日の仕事の喧騒を忘れるため目を閉じて静寂に浸っていると

テラスの方から声が聞こえてきた。なんだ客は私一人じゃなかったのか。

せっかく一人を楽しんでいたのに。

「あ、私ですー。」

電話か。早く終わらせてくれよ。私は静寂が好きなのだ。

「もしもしー あ、ご無沙汰してますー。はいー 今度またご飯でもいきましょー」

そんな社交辞令は要らないんだ。早く用件を言って終わらせてくれ。

「あ、ご無沙汰してますー。今ちょっと外に出ててー。はい。はい、もちろん大丈夫ですー」

何人としやべっているんだお前は。早く終わらせろ。

「はい、いいともー」

私はその声を聴いた瞬間物凄い勢いで店の外に猛ダッシュしていた。

店の外にもうその電話の主の姿は無く、

店内のテレビでは美人女優と電話で話したサングラスの男が静かにニヤニヤと笑っていた。

ちよ、ちよっと店の空気を無性に吸いたくなっただけだ。

私はクールスナイパー…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4876o/>

秘密

2011年10月8日03時41分発行